

国立病院機構熊本医療センター

No.161



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

平成22年度地域医療支援病院運営委員会開催される

平成22年度の国立病院機構熊本医療センター地域医療支援病院運営委員会が平成22年10月21日（木曜）午後4時より当センター会議室で開催されました。協議会は委員長の熊本市医師会会長福島敬祐先生、委員の熊本県健康福祉部医療政策総室長倉永保男様、熊本市保健所長大塚博史先生、熊本大学大学院医学薬学研究部細胞病理学教授竹屋元裕先生、熊本市歯科医師会会長清村正弥先生、熊本市薬剤師会会長高橋良治先生がご出席いただきました。池井院長より開会の挨拶の後、福島委員長よりご挨拶をいただき直ちに議事に移り、事務局より①紹介率、逆紹介率、②共同診療実績、③救急医療提供実績、④地域医療従事者の資質向上を図るための研修実績などを報告しました。紹介率は昨年より90%以上を維持しており、また逆紹介率も60%を超え更に増加傾向にあり、委員の先生方にもご満足頂ける内容と評価して頂きました。

当院は国立病院の中でもいち早く急性期病院を志向し、急性期特定病院の施設基準の獲得に続いて、2002年4月1日には、地域医療支援病院として国立病院では全国で初めて県から承認を受け、すでに8年が経過しました。地域医療支援病院は、紹介患者に対する医療提供、および医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能

力を備え、それにふさわしい構造設備を有するとして、承認を受けたものです。従って、紹介率が重要な要件となり、地域医療支援病院として要求される紹介率は80%です。当院はこの高いハードルをこえ、これ以上の紹介率をこの8年間維持してまいりました。これはひとえに開放型病院登録医の先生方をはじめ、当院を信頼して患者さんをご紹介頂いている先生方のおかげと深く感謝申し上げます。当院は、今後も患者さんに優しい、24時間いつでも、全科で断らない救急医療をモットーに、地域に根ざした、地域に信頼され、地域に貢献できる地域医療支援病院を目指す所存です。今後ともどうぞ宜しくご指導お願いします。

（副院長 河野 文夫）



運営委員会の様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「国立病院の思い出」

医療法人社団 杏風会
川野病院
院長 川野 尚



私は味噌天神で泌尿器科を開業しております川野と申します。

私は今年43歳となりましたが、40歳を超えて感じることは①思ったようには体が動かない、②涙腺が弱くなった、③昔の事を思い出して感傷に浸ってしまう等の事です。そこで、今回このような機会をいただきましたので、私の国立病院（あえて昔の呼び名で呼ばせてください）に対する思い出を書かせていただきたいと思います。

私の父（川野四郎、当院理事長）が国立病院の泌

尿器科の医長をしていたことから、物心ついた時には官舎に住んでおり、休みには家族でよく二の丸公園にお弁当を持って行っていました。小学生になると友達と水着を着たまま城内プールへ泳ぎに行き、二の丸公園では野球やサッカーをやり、木陰で若いカップルが乳繰り合っているところを冷やかし、大人の男性誌（エロ本）が落ちているのをまわし読みしたりしていました。

何度か泌尿器科の外来にも行きましたが、外来は廊下の一番端で、電気がついていない時に行くとは暗くて非常に怖かった思い出があります。外来といえば、当時私はアレルギー性鼻炎のため夕方に耳鼻科に吸入に行っていた時がありました。そこには女性のヌードのカレンダーが張ってあったのが忘れられません。

以前より国立病院は非常に優秀な医師が勤務されていまして、私が泌尿器科に入局した時は「いつか国立病院で勉強してみたい」との憧れがありましたが、私の能力不足で何の話もありませんでした。

国立病院は「国立病院機構熊本医療センター」と名前が変わり、さらに新病院を建築されました。その中でも、緊急で患者さんを受けていただけというスタンスを持っていただいていることは、私たち開業医には非常に心強いと思います。勤務されている先生方には、ご迷惑となるとは重々わかっておりますが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

脈絡のない読みづらい文章となり大変申し訳ありませんでした。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表 096-353-6501 内線 2360）またはFAX（医事 096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 中村 敦）

新病院施設紹介〈12〉

治験センター

治験センタースタッフ



治験センター事務室



治験センターは臨床研究部長を治験センター長とし、薬剤師3名、看護師2名、検査技師1名のCRC (Clinical Research Coordinator) と事務員2名の多職種からなる部署です。

治験については、以前より海外での治験実施が増加し国内での治験が減少する「治験の空洞化」が指摘されていますが、近年ではさらに欧米で承認されている医薬品が国内で未承認であって国民に提供されない状況、所謂「ドラッグ・ラグ」が問題視されるようになりました。このような状況において、治験は国策としてその実施が推進されるようになりましたが、現在では、諸外国と共同で同時に治験を実施する国際共同治験の実施が特に推進されるようになり、当院でもここ数年国際共同治験の実施が増えつつあります。

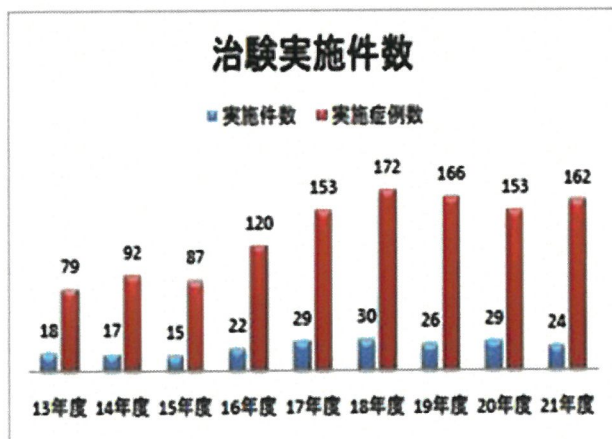
このような中、治験センターでは国内治験や国際共同治験を問わず24時間被験者対応ができる体制を整え、また、週1回関連部署を交えたミーティングを開催することで、院内での情報共有化を図りながら治験を実施しています。

治験の実施にあたっては地域の先生方から紹介された患者さまが、当院での治験に参加される場合があります。このような場合、患者さまが安全に治験に参加できるよう除外基準に抵触していないか等を確認するために、先生

方にお電話やレターにて情報提供をお願いする場合があります。また、当院から治験情報を先生方に提供させていただく場合もあります。被験者となる患者さまの人権の保護と安全の確保を図りつつ、治験データの質や信頼性を確保するため、先生方のご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。

新薬開発の一翼を担うと共に安全で質の高い治験を被験者に提供していきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

<治験センター主任薬剤師 林 淳一郎>



2010
診療科紹介 (30)
神経内科



医長
田北 智裕
 神経内科、脳血管障害
 日本神経学会専門医
 日本脳卒中学会専門医
 日本内科学会認定医
 日本てんかん学会



医長
俵 哲
 神経内科
 日本神経学会専門医
 日本内科学会指導医・認定医
 日本内科学会総合内科専門医
 日本頭痛学会専門医
 日本リハビリテーション学会

診療内容と特色

神経内科疾患全般を取扱っていますが、当院が救急病院ということもあり、入院中心の診療を行い、脳梗塞、てんかん、髄膜脳炎などの救急疾患が多い特色があります。

外来では、パーキンソン病を含めた神経難病や、頭痛・めまいなどの機能的疾患についても幅広く対応しております。日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定教育病院に認定されています。

研究実績

日常臨床を重視して、様々な神経疾患症例の臨床研究を行っています。脳梗塞などの救急疾患における画



医師
幸崎 弥之助
 神経内科、脳血管障害
 日本神経学会専門医
 日本脳卒中学会専門医
 日本内科学会認定医
 日本救急医学会
 日本脳神経超音波学会



医師
西 晋輔
 神経内科、脳血管障害
 日本神経学会
 日本神経治療学会
 日本内科学会

像や検査所見に対する研究や貴重な症例等について、日本神経学会、日本脳卒中学会、その他の研究会等に発表しております。

診療実績

平成21年度の新入院患者数は535人です。平均在院日数は15.2日となっております。

ご案内

神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、骨格筋が障害される疾患を扱っています。外来診療に関しましては、木曜日以外の平日を俵哲医長が担当し、火曜日と金曜日はそれぞれ西医師、幸崎医師も担当し、二人体制になっております。木曜日は田北医長が担当しています。入院診療に関しましては、田北・幸崎・西のスタッフ3名にて診療しております。

時間外及び休日の急患につきましては、on call体制にて対応しております。

当科に関連すると思われるような疾患につきましては、いつでも御紹介、御相談いただければ幸いです。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

院内感染活動報告

現在、新興感染症・再興感染症が注目され、さらに各種の薬剤耐性菌が出現し、21世紀は感染症の時代と言われています。医療機関においては患者の高齢化、高度な医療などにより、易感染者（コンプロマイズド・ホスト）が増加している状況です。

易感染者を多く抱える医療機関において、感染症が発生すると感染拡大を招きやすく、病院経営をも脅かし、感染対策は重要なものとなっています。改正医療法では無床診療所を含む全ての医療機関において感染対策は法的義務であることが明示されています。医療法では特定機能病院においては専任の院内感染対策を行う担当者の配置が義務付けられています。また、今年4月より感染防止対策加算も新設され、院内感染対策の推進が求められています。

当院では芳賀院内感染対策委員長の下、毎月院内感染対策委員会（ICC）を開催して、MRSAなど各種分離菌、耐性菌、薬剤感受性や抗菌剤の使用状況等の報告、問題点や改善点を討議しており、さらに週に1度、医師、看護師（ICN）、薬剤師、臨床検査技師をメンバーとしたICTラウンドを実施し、院内を巡回して、抗菌剤の適正使用や院内感染防止対策の実施状況の把握・指導を行っています。その活動の基となるデータの多くは細菌検査室より情報の発信しております。細菌検査室では平均1,500件/月の検体を取り扱っており、起炎菌、薬剤感受性の報告のみならず、検出された微生物の統計処理し、感染対策に役立てる情報発信

を行っています。検出された細菌の動向、特にMRSAや多剤耐性緑膿菌などの各種薬剤耐性菌は院内感染に関係が深いので、迅速な対応をして、アウトブレイク監視に心掛けております。言い換えれば、感染対策の火の見やぐらの存在ではないでしょうか？ 患者様には直接関わる機会の少ない、地味な部署ではありますが、感染対策に貢献できるよう心掛けています。

院内感染対策は医療従事者だけではなく、全職員に関わることから組織横断的な取り組みが必要とされており、検査室が積極的に介入し、安心・安全な医療の推進のためにも今後とも活動を充実させたいと思っています。

（臨床検査科 細菌血清主任 香月 耕多）



細菌検査の様子

医学生のための病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。

お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課上山（TEL096-353-6501）迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：

<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html> まで



国際医療協力

JICA 集団研修コース第3回 “肝炎の疫学、予防及び治療”

肝炎はAIDSとともに重大な地球規模の問題となっています。B型肝炎ウイルスの持続感染者は世界中で3億5000万人以上存在し、既感染者は20億人に上ります。アジアとアフリカでは、持続感染者が人口の8%以上の高頻度国があり、中には20%を上回る国など大きな保健医療上の課題となっています。近年遺伝子検査の発達によりB型肝炎ウイルスの遺伝子亜型の違いによりその臨床病態が異なることが明らかになりつつあります。世界的にみるとそれぞれ遺伝子亜型は一定の地域ごとに分布しており、それが各地域での発癌や治療反応性などの臨床症状の差につながると考えられています。今やB型肝炎に対してはこれらの知見をもとに対策を講じなければなりません。肝硬変や肝がん等、急性、慢性の肝臓病の主な原因であるC型肝炎ウイルスは、全世界に約1.7億人もの感染者が存在すると推定されており、公衆衛生の観点からは最も重要な病原ウイルスの一つです。このように肝炎は世界的な対策の樹立が急がれる感染症であり、感染予防対策、サーベイランス（国内外の肝炎の発生状況の把握）など国際社会の緊密な協力が不可欠となっています。

本院では昭和63年よりJICAの依頼を受けて集団研修コース、血液由来感染症“AIDS、ATL、ウイルス肝炎”を開始しました。途中でAIDS、ATLコースとウイルス肝炎コースに分かれ、20年間続いた集団研修コースは平成20年より名称を新たに“肝炎の疫学、予防及び治療”と名称を変更して再スタートすることとなりました。

第3回セミナーは平成22年8月30日より9月17日に



かけて開催されました。モンゴル、中華人民共和国、ラオス、ミャンマー、パキスタンより、計5カ国9名の研修員が参加しました。

これまで毎年プログラム内容の見直しを図り、できるだけアップデートな内容を盛り込むとともに日本全国より選りすぐりの講師陣をラインアップしてきました。前回は日本肝臓病学会主催のシングルトリックカンファレンスの参加を取り入れましたが、今回はその代わりにB型肝炎の水平および垂直感染を防ぐ方策についてのワークショップを盛り込みました。研修員を2グループに分け、それぞれのグループで各国におけるB型肝炎の共通する問題点を挙げてその解決策を考えるというものです。講師ではこれまでの東芝病院の三代俊二先生に代わり、前回よりB型肝炎の基礎と臨床に造詣が深い同病院のアクバル・シェイク・モハマド・ファズレ先生に講義のみならずコース開始時のジョブレポート発表会および終了時のアクションプラン発表会でのコメンテーターとしての大役を引き継いでいただいています。また、実習では、今回より日本赤十字社九州血液センター見学を取り入れ、昨年9月にリニューアルされた本院見学研修として消化器病センターを始め、中央検査センター、画像診断センター、透析室、病棟と施設見学および実際の検査・治療の時間を増やしました。内容の充実により好評を博しています。もちろん前回までの研修にご協力いただいた講師および見学研修施設は今回もご協力いただき、研修員より高い評価を受けています。関係の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。（消化器内科医長 杉 和洋）

第9回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座3単位認定）

この度、第9回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

座長：新町いえむらクリニック 院長 家村 昭日朗 先生

内 容：

1. 「平成21年度肝疾患治療ガイドラインについて」
「難治例C型慢性肝炎に対する治療の工夫～脾摘、V-RAD、βIFN先行投与～」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋
2. 「患者の視点に立ったクリティカルパスの改訂～パス適用患者におけるアンケート結果より～」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科病棟看護師 川畑 藍
3. 「胃静脈瘤に対するB-RTOについて」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科 具嶋 里香

日 時：平成22年11月1日（月） 19：30～21：00

場 所：国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センターホール

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501（代表） FAX：096-325-2519

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ48回

「心臓外科手術におけるE-PASSの有用性の検討」



麻酔科 小寺 厚志

「はじめに」

E-PASS (Estimation of physiologic ability and surgical stress) は、消化器外科の待機手術症例を対象として開発された、予測在院死亡率を算出する予後予測スコアリングシステムである。最近、E-PASSによる予後予測は消化器外科手術のみならず、整形外科手術、呼吸器外科手術、血管外科手術に対しても有用であると報告されている。そこで、我々は心臓外科手術の待機手術症例に対するE-PASSの有用性を、心臓外科手術を対象としてヨーロッパ諸国で開発された予後予測スコアリングシステムであるEuroSCOREと比較し、予後予測の精度を検討した。E-PASSとEuroSCOREによる予後予測の算出に必要な項目を示す(表1)。E-PASSは10項目であるが、EuroSCOREは17項目である。

「対象と方法」

対象：2004年1月1日～2010年6月30日(6年6カ月間)に国立病院機構熊本医療センターで施行された心臓外科手術の待機手術症例291例と2005年4月1日～2006年9月30日(1年6カ月間)に社会保険小倉記念病院で施行された心臓外科手術の待機手術症例784例との合計1075症例を対象とした。在院死亡例は32例で、在院死亡率は約3.0%であった。

方法：全症例に対して、E-PASSとEuroSCOREを用いて予測在院死亡率を算出し、実際の在院死亡を予測する精度を、ROC曲線下面積(AUC)を用いて比較検討した。またE-PASSとEuroSCOREにおいて、算出された予測在院死亡率の順に全症例を5つのグループに分けて、それぞれのグループでの実際の在院死亡率を算出し、予測在院死亡率と実際の在院死亡率との関連性をグラフで検討した。

「結果」

E-PASSでのROC曲線下面積(AUC)は0.877であり、EuroSCOREでのAUCは0.767であった(表2)。

E-PASSでは、算出された予測在院死亡率の上昇に伴って、実際の在院死亡率は明らかに上昇している(表3)。一方のEuroSCOREでは、算出された予測在院死亡率の上昇に伴う実際の在院死亡率の上昇の程度は、E-PASSに比べて緩やかであった(表4)。

「結語」

ROC曲線下面積や予測在院死亡率の上昇に伴う実際の在院死亡率の上昇から、E-PASSによる在院死亡予測の精度はEuroSCOREに比べて非常に高いと判断された。今後は、緊急手術症例への応用、術後合併症との関連性、集中治療室入室期間との関連性をさらに報告する予定である。

Variables of E-PASS (N=10)	Variables of EuroSCORE (N=17)
1・Age	1・Age
2・Severe pulmonary disease	2・Gender
3・Severe heart disease	3・Chronic pulmonary disease
4・Diabetes mellitus	4・Extracardiac arteriopathy
5・ASA class	5・Neurological dysfunction
6・Performance status	6・Serum creatinine
7・Blood loss	7・Critical preoperative state
8・Body weight	8・Active endocarditis
9・Operation time	9・Unstable angina
10・Extent of Skin incision	10・Ejection fraction
	11・Recent myocardial infarction
	12・Pulmonary hypertension
	13・Emergency or urgent
	14・Procedure other than isolated CABG
	15・Surgery on thoracic aorta
	16・Postinfarct septal rupture
	17・Previous cardiac surgery

表 1

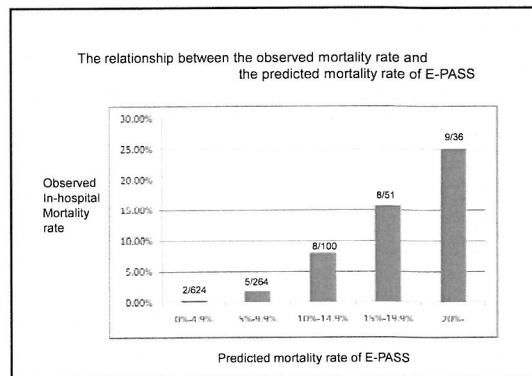


表 3

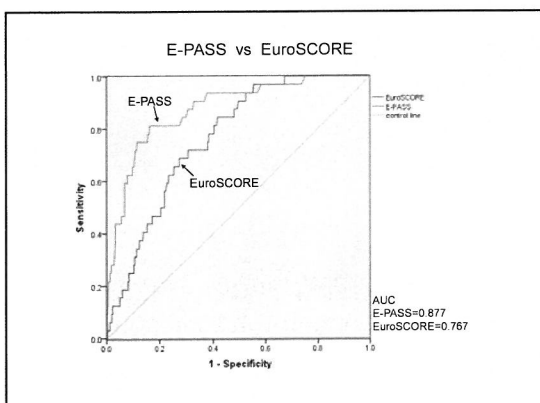


表 2

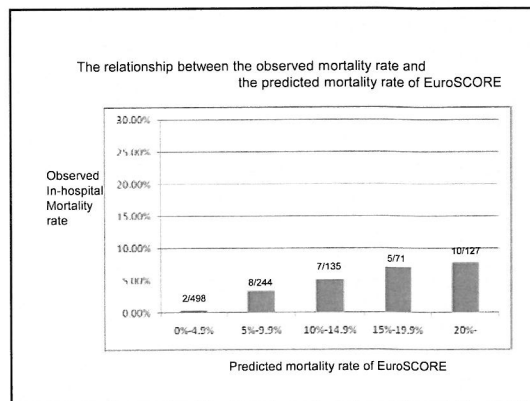


表 4

新任職員紹介



皮膚科

ながもと えいこ
永元 英子

平成22年10月1日より、当院皮膚科で勤務することとなりました永元英子と申します。

平成20年3月に熊本大学医学部を卒業し、同年4月より熊本労災病院で2年間初期研修を終えた後、平成

22年4月に熊本大学医学部附属病院皮膚科形成外科に入局いたしました。

大学では、悪性腫瘍や膠原病などの入院患者さんを担当することが主で、一般皮膚科に触れる機会がなかなかありませんでしたので、当院ではなにもかも一からのスタートでした。いまま、日々先輩方にアドバイスをいただきながら外来で奮闘しております。

数多くの症例を経験して技を増やし、すこしでもはやく患者さんのお役にたてるようにがんばりたいと思います。よろしくお祈いします。



血液内科

ひぐち ゆうすけ
樋口 悠介

平成22年10月1日より、当院血液内科で勤務することとなりました樋口悠介と申します

平成20年に地元熊本大学医学部を卒業後、同大学附属病院で1年、熊本労災病院で1年、初期研修を行い、

その後、熊本大学血液内科に入局し、半年間熊本大学医学部附属病院でお世話になりました。

熊本医療センターは、断らない医療を理念とし、非常に数多くの症例を受け入れているとお聞きしています。また、血液内科としては、熊本で唯一、同種幹細胞移植を行っている施設ということで、臨床医としての経験を増やす絶好の機会と考えています。まだまだ若輩者であり、様々な方に御迷惑をおかけする事と思いますが、一生懸命頑張っていきますので、御指導御鞭撻の程、よろしくお祈い申し上げます。

平成23年度 専修医（後期臨床研修医）を募集します

初期研修を修了し自己プロフェッショナルリズムを追求する若き医師に私達の病院は専修医制度を提案します。この制度は幅広い臨床能力と高い専門性を兼ね備えた臨床医を育成するためのものです。研修分野を広く選択できますから、複数の専門医資格を取得することが出来ます。また、熊本大学大学院医学教育部連携講座（博士課程）が設置されており、専修医と並行して臨床研究を行い学位取得も可能です。是非応募して下さい。

応募資格： 2011年3月31日までに臨床研修を修了する見込みの者または初期臨床研修修了者

研修期間： 3年間（希望により5年間まで延長可能）

研修のコンセプト

- 幅広い臨床能力と高い専門性を持つ新しい臨床研修医を育成します。
- 自由度の高い選択プログラム；原則3年の研修期間を設定し専門研修と関連領域の総合研修プログラムを個々の医師の将来像に合わせて選択します。内科、外科を超えた自由な選択が可能です。
- 病院間の交流研修；研修期間中にナショナルセンター（高度医療機関）等との交流研修を行い、広い視野と専門性に富んだ臨床医を目指します。
- 国際的な臨床研修；米国Veterans Hospitalへの海外留学を可能とします。
- 医療人としての研修；医療の質を高める臨床研究、深い洞察力を得るためのクリティカルパス、医療分野関連研修を実践します。

願書締切： 平成22年11月26日（金）

選考方法： 書類審査、面接等

問い合わせ先（応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。）

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 佐野 浩史

TEL 096-353-6501（代） FAX 096-325-2519 E-mail sano@kumamoto2.hosp.go.jp

※研修内容についての問い合わせ 研修部長 清川 哲志

TEL 096-353-6501（代） E-mail kiyokawa@kumamoto2.hosp.go.jp

研修のご案内

第7回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成22年11月6日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本市医師会

宮川 洸平 先生

演題:「うつ病と自殺予防」

1. 当院救急外来における自殺企図症例 国立病院機構熊本医療センター精神科 橋本 聡
 2. 老年期うつ病の実態調査と自殺予防の試み 熊本大学医学部付属病院神経精神科 藤瀬 昇 先生
 3. 最近のうつ病の特徴と自殺予防 熊本県精神保健福祉センター所長 中島 央 先生
- この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

第142回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座 単位認定]

日時▶平成22年11月15日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
 2. 持ち込み症例の検討
 3. 症例検討「急激な神経症状が出現した17歳女性」 国立病院機構熊本医療センター神経内科 中西 俊人
 4. ミニレクチャー「自己免疫性肝炎について」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 吉成 元宏
- 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第111回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成22年11月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「BOT(Basal Supported Oral Therapy)を行った2型糖尿病症例の検討」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
児玉章子・西東洋一・片桐光浩・島川明子・高橋毅・豊永哲至・東輝一朗
2. 「妊娠糖尿病の新しい診断基準と治療」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
東輝一朗・西東洋一・片桐光浩・島川明子・児玉章子・高橋毅・豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

第108回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成22年11月24日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「慢性閉塞性肺障害」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介
救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第49回 シンポジウム (無料)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成22年11月27日(土)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長 熊本県医師会会長 福田 稔 先生

「医療の将来ーがん診療と地域連携ー」

1. 行政の立場から 熊本県健康福祉部健康づくり推進課参事 手嶋 義明 先生
2. 熊本県がん診療拠点病院の立場から 熊本大学医学部付属病院がんセンター 佐々木 治一郎 先生
3. 地域がん拠点病院の立場からー熊本市・鹿本医療圏ー
国立病院機構熊本医療センター外科部長 片渕 茂
4. かかりつけ医の立場から 北美原クリニック 理事長 岡田 晋吾 先生

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2010年 研修日程表 11月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修センターホール	研修室	その他
1日(月)	19:30~21:00 第9回 二の丸肝臓談話会		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
2日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
4日(水)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
5日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
6日(土)	15:00~17:30 第7回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本市医師会 宮川 洗平 「うつ病と自殺予防」 1. 当院救急外来における自殺企図症例 国立病院機構熊本医療センター精神科 橋本 聡 2. 老年期うつ病の実態調査と自殺予防の試み 熊本大学医学部附属病院神経精神科 藤瀬 界 3. 最近のうつ病の特徴と自殺予防 熊本県精神保健福祉センター所長 中島 央		
8日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
9日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
10日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
11日(木)	19:30~21:30 歯科領域における救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀧 賢一郎 他	19:00~21:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
12日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
13日(土)	14:00~16:00 第225回滅菌消毒法講座 「感染対策シミュレーション~この時、消毒薬はこう使う~」 山口大学医学部附属病院薬剤部准教授 尾家 重治		
15日(月)	19:00~20:30 第142回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
16日(火)	18:00~19:30 第54回 くすりの勉強会(公開)		15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
17日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
18日(木)		19:00~20:45 第111回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
19日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「C型肝炎のインターフェロン治療」	8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
20日(土)	13:30~17:00 第80回 ナースのための救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
22日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
24日(水)	18:30~20:00 第108回 救急症例検討会 「慢性閉塞性肺障害」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
25日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
26日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
27日(土)	15:00~17:30 第49回 シンポジウム [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本県医師会会長 福田 綱 「医療の将来ーがん診療と地域連携ー」 1. 行政の立場から 熊本県健康福祉部健康づくり推進課参事 手嶋 義明 2. 熊本県がん診療拠点病院の立場から 熊本大学医学部附属病院がんセンター 佐々木治一郎 3. 地域がん拠点病院の立場からー熊本市・鹿本医療圏ー 国立病院機構熊本医療センター外科部長 片瀨 茂 4. かかりつけ医の立場から 北美原クリニック 理事長 岡田 晋吾		
29日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
30日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)